

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (例令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月25日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	これからの時代を心豊かにたくましく生きていく力を育むため、主体的に学ぶ意欲を高め、資質・能力を育成する教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。	(1)生徒の実態とニーズを分析し、資質・能力を育むことができる新教育課程を編成する。 (2)外部の教育力と連携を深めながら、生徒の様々な学びの機会を構築する。 (3)臨時休業等緊急事態体制に係る生徒の学びを保障する。	(1)生徒の資質・能力の向上と進路実現を目指した新教育課程を編成する。 (2)外部の教育機関、企業、大学と連携をはかり、生徒の学習意欲を高めながら学習活動をささえる。 (3)オンラインシステムを活用した教授方法の研究開発と学習機会の拡充に努める。	(1)本校の教育目標と生徒の実態に合った新カリキュラムが編成できたか。 (2)add-on 講座、「総合的な探究の時間」、「アントレ」等の講座内容のアンケート評価は高かったか。 (3)インターネット配信の課題学習など新たな学習支援を工夫し学習意欲を高められたか。	(1)県と協議し新カリキュラムの骨子を完成させた。 (2)講座「アントレ」の授業アンケートで約8割が達成感を感じ、「add-on 講座」受講アンケートも高い評価であった。「スタディサプリ」を紹介し臨時休業や緊急事態体制下の学習を支援した。 (3)全職員が Google グループ等により生徒との双方向のやり取りを実施した。	(1)生徒の様々なニーズに対しソリューションを行いより実効性の高い科目の設置への継続協議が必要。新カリ導入に向け新カリに合わせた2年3年生旧カリの調整が必要である。 (2)「アントレ」授業の質の維持と継続拡大への全職員の意識向上が課題。「add-on 講座」継続実施により資格取得者の増大につなげたい。 (3)ICT活用の授業拡大に向け職員の得手不得手への組織的な対応が必要である。	(1)本校の特色を強化し全教科で教科横断的かつ探究的な質の高い授業の展開を期待する。 (2)「add-on 講座」は総合型選抜対応にも効果的である。コロナ禍でも多面的な学びに取り組み評価できる。 (3)コロナ禍により生徒が不利益を受けないよう職員の不得手を超えたICT活用を推進が必要である。	(1)教育目標と生徒の実態に合った新カリキュラムの骨子を完成させた。今後、より特色を強化し教科横断的かつ探究型の授業実践が必要である。 (2)外部機関を活用した多面的な学びを提供できた。各講座の質の維持と効果の検証が課題である。 (3)ICT活用の新たな学びの環境や手法は一定程度進展した。一層効果的な活用へ取組が必要である。	(1)新カリキュラムへの移行に向けて旧カリキュラムの調整、教科横断的で多面的な学習や探究型授業の工夫など質の高い授業実践のための校内研修体制を構築する。 (2)「アントレ」の研究集録を作成し内容の継承と拡大と学校全体への普及に努める。 (3)ICTの効果的な活用について研修会やマニュアル作りを充実させるよう体制を構築する。
2 生徒指導・支援	部活動や行事、日常的な生徒指導を通して、社会規範を身に付け責任感や連帯感を高め、自己実現に向けて努力する姿勢と命を大切にすることを育む。	(1)緊急事態体制下の対応を視野に入れた組織的な教育相談体制と生徒指導体制の構築により一層円滑で充実した指導、支援を図る。 (2)部活動と行事の活性化を通して確かな社会性と心身の成長を図る。また、他者と協力して成し遂げることを経験しながら成長していくよう導く。	(1)①こまめな情報発信や収集を行い各学年での教育相談窓口を活性化させる。 ②基本的生活習慣、交通安全、ITモラルに係る指導を充実させ意識向上を図る。 (2)①部活動においては、目標を明確化し、技術指導のみならず精神的な成長を促し内容の充実を図る。 ②行事では他者との意見交換、協力を通して豊かな社会性を身につけるよう支援する。	(1)①マニュアルに沿って組織的に支援できたか。 ②交通事故件数、SNS関連の生徒間トラブルが減少したか。 (2)①部活動の加入率は向上しているか。活動の頻度、時間などは適切に運営されているか。 ②行事への参加意識、満足度は高まったか。	(1)①生徒の悩みや問題に対して面談や教育相談アンケート、家庭訪問やケース会議により組織的に支援できた。 ②SNSトラブル・生徒間トラブルが数件発生し継続的かつ丁寧な対応を行った。登下校指導・バス乗車指導により近隣の苦情に丁寧に対応した。 (2)①休校と活動時間の制限等があり加入数の向上は実現できなかったが各活動は適正に行われた。 ②体育祭は中止したが文化祭は規模縮小で実施した。企画内容や食事場所等の工夫、ステージ動画配信を実施し一定の満足度を得た。	(1)①対応マニュアルを整備し共有することにより組織的支援力の一層強化が必要である。 ②SNSトラブル等教育相談に係る専門的なスキルや知識が求められている。近隣からの苦情は減ってきたが自転車通学指導等継続的な実施必要。 (2)①活動時間や内容に制限があり生徒のモチベーション維持が課題であり意欲を引き出す指導を検討したい。 ②文化祭を開催できたことは概ね好意的に受け止められたが引き続き感染対策に配慮したマナー改善指導、密集を作らない場の設定等次年度に向けて検討したい。	(1)家にいる時間が長くいろいろな問題が出やすいと感じる。継続して対応をお願いする。バス利用について苦情を受けたが対応していただいた。他の苦情も減少している。 (2)オンラインによるイベント開催や部活動では自治体管理のスペース利用など様々な手法を追求し活動内容を工夫することで生徒の活動を積極的に支援しモチベーション維持に努めてほしい。	(1)人間関係やSNS関連など問題が多様化する中、SCやSSWとの連携、ケース会議などにより組織的な対応ができています。職員の教育相談能力のより一層の向上や組織的対応の強化が課題である。 (2)部活動や行事では生徒主体の活動が大幅に制限されたが安全面の配慮と内容の工夫により支援できた。安全面を配慮しながらより効果的な指導とする方策の検討が必要である。	(1)問題を抱える生徒の早期発見、適切で組織的な対応等各学年の教育相談担当を中心に相談機能を一層強化する。地域から愛される生徒を育むべくバス乗車や自転車通学指導を一層徹底して行う。 (2)感染症対策を万全にして安心安全な生活となるよう適切な指導や支援の方策を検討する。生徒の主体的な活動へのモチベーション維持のための新しい手法を追求していく。

	視点	4年間の目標 (例令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月25日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりの進路希望実現に向け、自らのキャリア発達を意識できる、3年間を見通した進路指導の充実を図る。	(1)社会状況の変化に対応した進路希望実現のためのサポートを充実させる。 (2)3年間を通じて生徒個々の主体的なキャリア形成を意識した進路指導の充実を図る。	(1)①社会状況の変化に対応する緻密な情報収集に努める。 ②高大接続改革に対応したキャリア支援策を実践する。 (2)①勤労観・職業観を育むため大学や企業と連携した行事を充実させる。 ②総合的な探究活動で培った力を進路活動に活用する効果的な指導法を研究する。	(1)①収集した情報を希望進路実現に生かされたか。 ②高大接続改革に対応したキャリア支援策を行えたか。 (2)①キャリア教育に効果的な企画となったか。 ②探究活動の成果を活用した次年度のキャリア支援策を企画できたか。	(1)①②高大接続改革及びコロナ禍に対応した進路スケジュールにより支援した結果ほぼ昨年並みの進路決定状況となった。 (2)①インターンシップは中止となったが、授業「社会人に学ぶ」や分野別説明会の実施、講演会へのリモート参加を工夫しキャリア教育の機会を保証した。 ②修学旅行の延期で探究活動の成果検証が不十分のためキャリア支援策は検討中である。	(1)現2年生は定期テストや上級学校説明会等の中止があり進路検討時期の情報不足が課題である。早期の説明会や面談等で希望進路実現の手厚い支援を行いたい。 (2)①感染防止に十分注意した上で各種説明会を行うと共に、今年度試験的に行ったりリモートワークによる説明会について次年度では機会の拡大を検討したい。 ②キャリア支援策については継続の課題とした。	(1)生徒は希望する進路に進んでおりキャリア教育の取組は評価できる。現社会情勢下では進路検討時期の情報不足に対応した早期からの情報提供を続けてほしい。 (2)「社会人に学ぶ」は進路を考えるきっかけの提供としても良い取組である。青葉区内に生徒がリモートワークに利用可能なスペースがある。活用してほしい。	(1)コロナ禍の新入試制度に対応した進路スケジュールによりほぼ昨年並みの進路実績を達成できた。今後も情報不足への早期の対策と工夫が課題である。 (2)外部人材の活用により進路探究の意識ができた。さらに進路に結び付く探究的な学びとキャリアパスポートの有効利用を検討しキャリア教育を強化する。	(1)次年度に向けてこれまでの進路状況の分析や検証を行い強みを伸ばす進路指導に努める。新しい入試制度や入試スタイルに対応できるよう情報提供の充実化を図る。 (2)外部人材の活用する機会を増やし生徒の意識付けを図ると同時に探究的な学びとキャリアパスポートの有効利用を検討しキャリア教育を強化する。
4	地域等との協働	地域に開かれた学校としての取組みをさらに進め、保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との連携を促進し、協働と信頼に根ざした学校づくりを推進する。	(1)地域との連携を密に行い、生徒との関わりをもつ機会を多く作ることによって、生徒個々の多様な成長を促す。 (2)地域貢献を推進し、生徒の自己有用感を醸成する。	(1)地域や外部機関と連携する機会を充実させ一層の参加を促す。 (2)校外の行事等に積極的な参加を促すとともに、社会貢献に向けての取組みを支援する。	(1)地域の教育力を活用した場面を多く設定できたか。 (2)地域と繋がることで学校への信頼を得ることができたか。 社会貢献活動を主体的に行うことができたか。	(1)非常事態宣言下で地域や外部と連携した取組が難しい状況下で徐々にではあるが地域との連携を図る活動を始めている。当初目標に程遠い現状である。 (2)信頼については判然としない点もあるが、社会貢献活動については、ほぼ実施できていない。	(1)今後状況を見ながら機会を捉えて地域への働きかけ、学校への信頼を得られるよう継続して努めていく。 (2)社会貢献活動の在り方と密にならない方法を検討する。	(1)(2)社会情勢の変化や新しい生活様式の中で様々な媒体を駆使した地域連携・協働学習も大切である。連携している地域や内容の具体を明示することと地域連携をカリキュラムの中に位置づけることが求められる。明記したい。 高校の価値を地域に一層提供し社会的評価を高め意欲的な受験生の増加につなげたい。	(1)(2)感染対策のため地域や外部と連携した取組が難しい状況下であり当初目標の実現は達成に至らなかった。次年度はより多くの地域との協働活動や社会貢献活動を実施しいかに高校の価値を地域に提供していくかが課題である。	(1)(2)地域の教育力を活用しより豊かな人間形成を目指すため地域と協働可能な取組をカリキュラムに組み込んでいくことを検討する。連携協働を図っている地域や内容を明示し提示していくことで地域における社会的価値を高めることにつなげる。
5	学校管理 学校運営	保護者や周辺地域による、本校の教育活動に対する理解を深化させるとともに、安全・安心・快適な学習環境を整備し、保護者や県民から信頼される学校づくりを確立する。	(1)防災研修を通して、防災意識を高めると共に、防災体制の整備を推進する。 (2)本校の教育活動や活動実績をわかりやすく説明し、生徒主体の充実した内容にする。 (3)社会状況やニーズに迅速に対応するとともに安心安全な学習環境の整備を一層推進する。	(1)実際の災害を想定した防災意識の向上と防災体制を充実させる。 (2)①学校説明会等の運営と内容が生徒主体となるように、企画し実施する。 ②学校HPに本校の情報をきめ細かく、かつ丁寧に掲載する。 (3)教育環境の変化や課題等を共有するための会議や研修会等の実施により組織力を高める。	(1)大規模地震を想定した防災意識が定着したか (2)①学校説明会において生徒スタッフが意欲的に取り組むことができたか。 ②HPの内容を充実させ、的確な情報発信ができたか。 (3)会議や研修会の内容、実施状況、評価は充実したものであったか。	(1)地震防災訓練、シェイクアウト、情報伝達訓練、災害図上訓練、AED講習(職員のみ)を行い防災意識を高めた。 (2)①3回の校内外説明会や学校見学会を実施し計2千名以上参加した。生徒スタッフの協力により9割以上が満足との評価を得た。 ②学校紹介内容の充実やこまめな情報発信、HP以外のSNSを活用し外部の好評価を得た。 (3)ビデオ視聴研修を実施し良い評価であった。	(1)引き続き防災意識の向上と定着を目指す必要がある。 (2)①コロナ禍により外部に対する広報活動に制約や制限が多くある中で新しい広報の形を追求する必要がある。今後も社会状況に合わせ、より分かりやすく丁寧な内容の提供を追求していく。 ②引き続きこまめな更新を心掛けHPの内容の充実に努めたい。 (3)引き続き、感染防止対策下での研修のあり方を模索し内容の充実化につなげたい。	(1)防災対策としての生徒の意識付けへの工夫を継続してほしい。 AED講習は生徒の参加も必要である。地域内でのAED設置場所は郵便局に掲示があり、周知すると良い。 (2)HPなどの情報の発信評価として週に1度は更新するなどして更新頻度などを評価可能な数値を示すと良い。	(1)感染防止下で安全面に配慮しながらほぼ昨年度並みの防災訓練を実施し防災意識の保持に努めた。 引き続きAED講習の生徒の実施も検討していく。 (2)実施形態の工夫や多様な媒体による重層的な情報の発信及び配信で質・量ともに昨年以上に充実したものとなった。今後は取組評価の可視化が課題である。	(1)防災意識の醸成と安心安全な学校環境の整備は極めて重要であり継続して取組を強化していく。 (2)情報発信に係る評価の指標としてHP更新頻度等を設定し取組度を可視化することにより信頼と評価を高めることにつなげる。